

「地域でつながる安心なま ち」

小田原市立白鷗中学校

二年 朝倉 海音

私が住んでいる小田原市は、小さな公園や商店街があります。ほぼ毎日通う学校の帰り道でも、顔見知りの人とすれちがうことが多く、「おかえり。」「おつかれさま。」と声をかけてもらうことがあります。そうした声を聞くと、不思議と安心した気持ちになり地域の人たちに守られているように感じます。私はこの経験から、地域のつながりが社会を明るくする大きな力になるのではないかと考えるようになりました。

地域の人たちとのつながりがあると安心できることがたくさんあります。たとえば子ども一人で遊んでいても大人の目があることで安全が守られます。また、知らない人が困っ

ていたら誰かが声をかけたり助けたりできるのも日ごろからの関係があるからだと思います。逆にまわりの人が互いに知らないまま生活していると、困っている人がいても声をかけにくく、孤立してしまうこともあるのではないのでしょうか。

私がおどろいたことは、八月三日の花火大会の次の日に地域の人、白鷗中学校の生徒たちが清掃に参加していたことです。清掃を通して地域の人たちと人をつなげ、安心できるまちづくりにつながることを実感しました。

また、災害が起きたときにも地域のつながりは大切です。もし、大きな地震や台風が起きたら家族だけでなく近所の人たちとも助け合いが必要になります。普段から顔見知りであれば声をかけ合い、避難したり、食べ物や水を分け合ったりできると思います。安心して暮らせるまちは、平和な時だけでなく、困ったときこそ力を発揮するのではないのでしょうか。

「社会を明るくする運動」は、犯罪や差別をなくし、誰もが安心して暮らせる社会をめざすものだとなりました。そのためには、まず私たち一人一人が「小田原市」のために何かできることを考え、行動することが大切だと思います。あいさつをしたり、ゴミを拾うこと、困っている人にやさしく声をかけること、どれも普段やっている小さなことかもしれませんが、それが積み重なれば、大きな地域の安心につながります。

私は、これから地域の人たちとのつながりを大切にし、自分からあいさつや思いやりのある行動をしていきたいです。そうした取り組みが広がれば、地域だけでなく、社会全体が明るくなり、誰もが安心して暮らせるまちになると信じています。